

資源物回収拠点の拡充の方向性と今後の検討事項

1 資源物回収拠点拡充の方向性

- (1) 効率的で、排出しやすい資源物の拠点回収に向けて、大規模回収拠点と小規模回収拠点の2種に分けて、回収品目や配置を再検討していく。
- (2) 大規模回収拠点では、上京RSのような、多品目を回収対象とし、利用しやすい（土日も利用可、自動車での搬入可など）拠点を複数配置していく。また、利用者増、資源物の回収量増に向けて、新たな品目や効果的な併設機能を検討していく。
- (3) 小規模回収拠点では、現行の主たる拠点回収体制である、公共施設や商業施設等の一角に回収ボックスを配置して回収する拠点配置を継続する。ただし、現在、課題となっているリチウムイオン電池内蔵製品の回収体制の充実を図るため、その受入品目となる「小型家電」の回収体制を見直す。

2 大規模回収拠点配置に係る今後検討すべき事項（1(2)の具体化）

- (1) 検討すべき事項
 - 想定利用範囲からの（理想的な）配置数
 - 具体的な拠点候補選定（既存・新規含め）
 - 対象品目
 - 付帯機能の有無
 - 回収ポテンシャル量など効果予測
 - 整備内容
 - 運営体制
- (2) 新たな品目・機能を検討するうえでの効果検証
 - 新たな品目（案）
 - ・ 衣装ケース
 - ・ 布団
 - ・ 小型金属類・スプレー缶
 - ・ 陶磁器製の食器
 - ・ 小型家電の受付サイズ変更
 - 機能（案）
 - ・ リユース品受付拠点（+リユース品販売拠点）

(3) 小型家電回収の見直し案

- ・ ボックスで回収する対象を「小型家電（30cm×40cm×40cm以内）」から「リチウムイオン電池内蔵製品」に特化させることで、ボックス管理上の課題を解消し、商業施設、公共交通機関をはじめとする市民の導線上への配置を充実させ、リチウムイオン電池内蔵製品の回収率を向上させる。
- ・ 従来の「小型家電（30cm×40cm×40cm以内）」については、大規模回収拠点を中心としていくこと見据えつつ、当面は区役所・支所やまち美化事務所等の管理体制が整っている拠点では、継続してボックス回収していく。

(4) その他の品目について

拠点数だけでなく、日常生活の導線上にあるか、受入時間が持ち込みやすい曜日時間かどうかなども重要なため、リチウムイオン電池内蔵製品の回収ボックス配置に合わせて、他の品目の設置も進めていく。

(参考) 現在の資源物の拠点回収

(1) 京都市の資源物等の回収体制

行政が関与する資源物を回収する仕組みとして、定期収集、拠点回収・移動式拠点回収、コミュニティ回収の大きく3つの回収方法があり、それぞれ回収対象の品目は異なる。

回収方法	対象品目
定期収集 対象	①缶・びん・ペットボトル、②プラスチック類、 ③小型金属類・スプレー缶、④古紙類（新聞・段ボール・雑がみ）
拠点回収・ 移動式拠点 回収の対象	①古紙（新聞、ダンボール）、②雑がみ（紙箱、包装紙など）、③紙パック、 ④使用済てんぷら油、⑤古着類（古着、古布など）、⑥乾電池、 ⑦ボタン電池、⑧充電式電池、⑨蛍光管、⑩水銀体温計・水銀血圧計、 ⑪小型家電、⑫磁気テープ類、⑬インクカートリッジ、⑭リユースびん、 ⑮刃物類、⑯使い捨てライター、⑰陶磁器製の食器*、⑱木の枝* * 移動式拠点回収でのみ回収対象。資源物のほか、「有害・危険ごみ（石油類、医薬品・農薬、化学薬品・塗料・ワックス・絵具、洗浄剤）」も回収
コミュニティ 回収	◎古紙類（新聞・段ボール・雑がみ・紙パック） ◎古着類（古着、古布など） ○缶類（アルミ缶、スチール缶） ○びん類（ワンウェイびん） ○その他（ペットボトル、小型金属類など） ※ ◎は必須項目

(2) 資源物の回収実績（R5）

拠点回収では合計約3千トン、移動式拠点回収では合計約3百トン弱を回収している。

	定期収集	拠点回収	移動式 拠点回収	コミュニ ティ回収	合計
缶・びん・ペットボトル	12,530t			212t	12,742t
プラスチック類	10,926t				10,926t
小型金属類・スプレー缶	303t				303t
古紙類	1,544t	2,124t	58t	15,045t	18,770t
古着類		371t	48t	709t	1,127t
使用済てんぷら油		106t	7t		113t
乾電池		104t	17t		122t
充電式電池		5t	1t		7t
小型家電		335t	42t		378t
有害・危険ごみ			13t		13t
その他		37t	98t	60t	195t
合計	25,303t	3,083t	271t	16,026t	44,696t

(3) 回収拠点の品目別拠点数

ア 主な品目の拠点数

品目	拠点数 (R6)	協力店*
使用済てんぷら油	1,645 箇所	
リユースびん	145 箇所	
紙パック	304 箇所	
乾電池	338 箇所	188 箇所
蛍光管	124 箇所	227 箇所
小型家電	38 箇所	184 箇所

※ 町の電気店等に下取りとして引き受ける品目を市で受け入れている。

イ 多くの品目を扱う拠点

拠点名	箇所数	品目数	備考
上京リサイクルステーション (以下「上京RS」という。)	1 箇所	16 品目	・平日&土日祝 9-17 時
まち美化事務所	6 箇所	16 品目	・平日 9-16 時 ・南部まち美化事務所のみ土日対応
エコまちステーション (区役所・支所内)	14 箇所	15 品目	・平日 9-17 時 ・「刃物類」は対象外 ・エコまちステーションでの古紙類の回収は、週1回午前に実施

(4) 上京RSの利用状況

京都市の資源物回収拠点の中で、特に回収量が多い上京RSの状況を紹介する。

ア 資源物回収実績 (R6)

上京RSでは回収量が多いが、特に、古紙類、古着類、小型家電などの回収量が多くなっている。これらの品目は、重い、量が多い、大きいといった特徴があり、上京RSへは車での搬入が可能なことが要因の一つと考えられる。

主な品目	回収量	総拠点回収量に占める割合
古紙類	805 t	39.0%
古着類	147 t	37.6%
使用済てんぷら油	5.6 t	4.8%
小型家電	61 t	14.6%

イ 利用者数 (R6)

年間利用者数 : 100,895人

一日平均利用者数 (平日) : 234人/日 ⇒ 2~3分に1名程度

一日平均利用者数 (土日) : 382人/日 ⇒ 1~2分に1名程度

ウ 利用者アンケート

令和4年9月16日、20日、22日の計3日間で上京RSの利用者に対してアンケートを実施した (n=421)。

(ア) 居住地域

	割合
上京区	68%
隣接区	26%
その他	6%

2/3 が立地している上京区住民

(イ) 来場手段

	割合
車	64%
自転車	25%
徒歩	8%
その他	2%

2/3 が自動車で来場

